

厚生連村上総合病院

2012 臨床研修案内



村上総合病院臨床研修管理委員会

2009年の研修プログラム改訂にあたって 大幅に研修プログラムを変更

より研修医本意の内容へ

一特に救急医療の研修の充実と、介護緩和医療の研修の充実一

研修制度の見直しが行われ、いくつかの点で大きな変更があった。プログラム上の大きな改訂は、研修科目が、Ⅰ、「必修科目」内科：6ヶ月以上、救急部門：3ヶ月以上、地域医療：1ヶ月以上（2年目）、Ⅱ、「選択必修科目」外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、のうち2診療科を1年目の3ヶ月間研修する。Ⅲ、「選択科目」前述の科を含む各科の科目、期間を研修医が選択する。研修医の自由選択制が高まり、科目数を絞り込めば、より専門性を高められるとした点にある。

当院研修委員会は、当院の特色を生かし、より研修医の希望を生かし、研修の効果を高めるために、多くの分野でプログラムの変更を行ったが、殊に麻酔科研修とは独立した救急部門の研修改革は、当院でも特に力を入れた。

1. 救急部門の拡充：救急当番医の密なる連携と研修に統括指導医を任命。

救急部門の研修は3ヶ月以上となっている。原則、内科研修後としたが、早く患者の前にとの意見もある。当院には、年間1600台前後の救急車が患者を搬送して来院する。1日平均4.4台であり、日勤帯の平均は1.8台である。その8割以上が入院する。家族が搬送してくる救急患者は、年間3,500人で、そのうち、入院が750人で、救急患者の日勤帯入院患者は平均3人である。日勤帯入院患者の科別統計では、内科が60%、脳外科が14%、整形外科が12%、外科が10%である。内科の患者は救急外来より、入院第3病日まで、その他の科は、外来、入院第1病日までの、主に全身管理を中心に研修する。そして次々に新しい患者の診察、全身管理を学ぶ。当院の日勤帯における救急患者診療体系は、各科、救急当番医をもうけ、診療に当たり、入院時は主治医を決め引き継ぐという体制になっている。研修医は、それら救急当番医を指導医として研修に当たる。統括指導医としては外科医で、各種救急医療指導医としての資格を持っている医師を当てた。その資格は日本救急医学会認定 ICLS インストラクター及びディレクター、日本救急医学会及び日本外傷学会認定 JATEC プロバイダー及びインストラクター、新潟県下越地域 MC 協議会 MC 統括医師、American Heart Association (AHA) の BLS プロバイダー及び ACLS プロバイダー、日本 DMAT 隊員：統括 DMAT 研修終了などである。当院では自動体外式除細動器を用いた一次救命処置 (BLS-AED) 公式な講習会を毎月開催しており、研修期間中に有資格者となってもらおう。救急搬送担当消防隊員（多くは救急救命士）と当院救急担当者（医師・看護師）が、毎月1回、搬送中の処置などが適切であったか、改善の余地はないかの検討会も行っているため、研修医にも参加してもらおう。心肺機能停止患者 (CPA) は毎月、何例か救急車で運ばれてくるので、救急当番医と共に、全力を尽くしてもらおう、等、濃厚な救急医の役割がひかえているので、楽しみにしていただきたい。これも北へは100km、南へは60kmと、ほぼ神奈川県全面積に匹敵する範囲内に、総合病院は当院のみということが大きく影響している。

2. 離島研修。

村上市の沖合、60kmの所に粟島という人口300人の、離島僻地無医村の島がある。医師が行くべきであるがいけないので、テレビ電話で村上総合病院の救急外来と、粟島僻地出張診療所を結び、定期的に交信する。急患の時は救急として医師の前にテレビ画面で全身状態を診せ、会話し、診療し、診療所にいる看護師に指示を出すなどの診療を行っている。この診療所には、老人ホーム、幼稚園が併設されていて、介護医療も行っている。又診療所に来る患者も大部分70才以上である。

3. 介護医療研修。

郡部で、県北で、しかも神奈川県全県に匹敵する面積の中を、総合病院は唯一村上総合病院のみであり、しかも老人が多く、さらに家族とは離れ、孤立独居老人率は新潟県一である。さらにこの村上地区は、一人あたりの医療費が新潟県内では最低で、医療制度の恩恵を受けていない人達が多いため多い地域である。そうした中で、瀬波病院は県からの譲渡を受け、新潟県厚生連の一病院として、介護病床を加え、村上総合病院の関連病院として、急性期病院と慢性期病院との病病連携の元、地域住民に多大なる恩恵をもたらし始めている。この瀬波病院は、温泉を利用したりハビリ、温泉を利用した誰でも利用できる足湯を玄関前に設置、多くの患者、家族に利用されている。そのような活動と、他の地域に住む家族との今後の方針の話し合いは重要な課題となってくる。そのような話し合いに参加し、ある意味での終末期医療のしかも過疎僻地地域での問題点を肌で感じ、医師として、大きく羽ばたいてほしい。

4. 緩和医療研修

村上総合病院では、緩和医療にも大いに力を入れ、認定施設の資格を獲得するとともに、指導医は当院だけでなく、他の病院の指導にも出かけ、この県北の医療を高めている。高齢者は、やはり見慣れた、知人が訪ねてくれる地区で、人生の終わりを遂げたいのか、手術の時は息子や娘の元で治療を受けるが、終末期は地元でと言う人が多い。できうれば風光明媚な所に緩和病棟を建て、患者の心にまで優しさがしみ通る環境下で行いたいと考えている。現時点では瀬波温泉の瀬波病院に併設するのが最適ではないかと考え、準備している。現時点では、村上総合病院、瀬波病院、そして緩和医療に精力的に取り組んでいる瀬賀医院との連携で実施し、研修もこの3者の連携の元、行う。

5. 他の病院との連携研修、特に長岡中央総合病院について

新潟県厚生連の基幹病院である長岡中央総合病院との研修協力を行うことになった。選択教科も多く、選択期間も長く、病院へ来てからプログラムをともに作る作業をしなければならぬが、解りやすくするために、研修科目スケジュール表には選択に括弧して、例を設けることにした。研修医は必ず迷うと思ったからである。この表を元に、選択科目の選定の指導には、研修管理委員長自らが当たることとした。

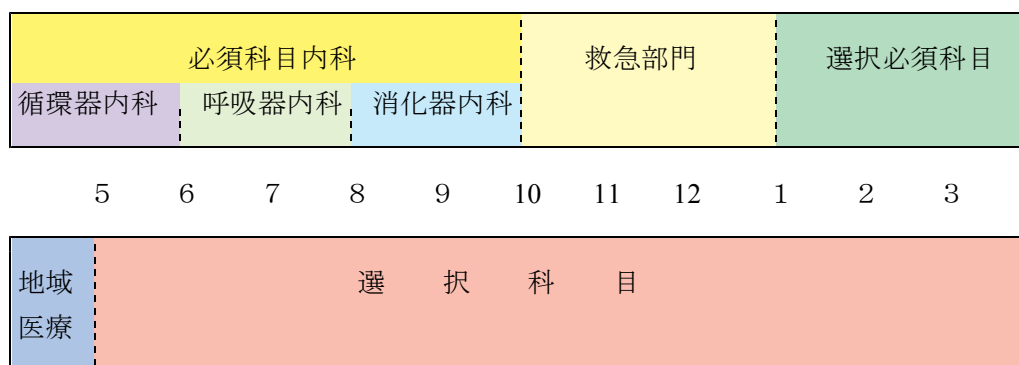
長岡中央総合病院は県下有数の病院である。最先端の医療設備などがそろっている、放射線医療も含め、麻酔科、放射線科等も複数の常勤医がそろっている。その長は、全国でもトップクラスの人材である。そのような病院で初期研修するのも、必ずしも悪いとは考えてはいないが、我々は理想的とは思っていない。医師として育っていく課程で、フ

ファーストタッチのできる患者が、他の医療機関の紹介患者が大部分であるのと、全く医療機関どころか、無医村、無医地区からの長期間我慢に我慢を重ねて、病気をこじらせ複雑にして初めて村上総合病院に来るこの地域での医師としての研修は決して無駄どころか貴重な経験になるであろう。そうではあるが、やはり、先端医療もかいま見る必要はある。学生時代大学病院での臨床実習で経験してきたではあるが、医師となって、郡部の医療を経験した上で、先端医療をかいま見る重要性は、否定しない。大いに支援するつもりである。そのような観点から、2人のプログラムは、長岡中央総合病院の内科研修を取り入れた。大いに活用してほしい。

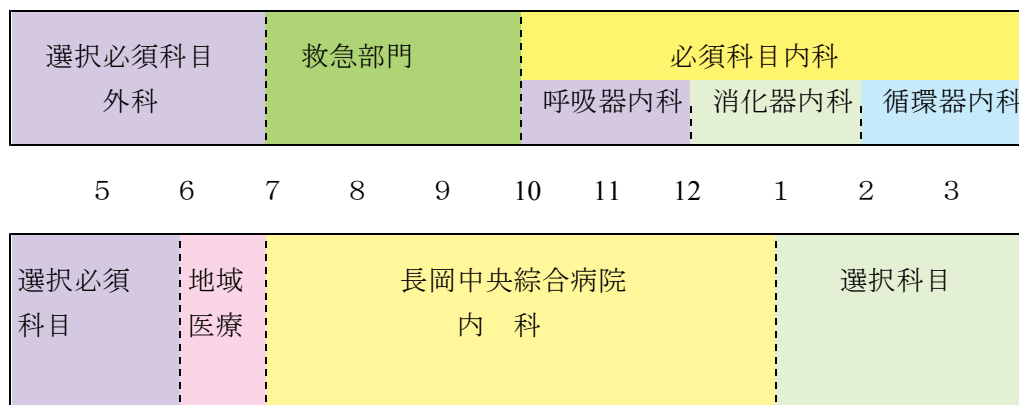
研修医の時代、指導医に向かってあらゆる注文をしていいのに(ある意味では最後のチャンスかもしれない)行わない出来ないのを散見する。非常に残念だ。自分の患者を研修医に任せるのは非常に勇気がある。冒険と言っても過言ではない。指導医は、解っているのか解らないのか、闇雲に診療しているのか、展望を持って診療しているのか絶えず知りたいし、判断したいものである。それには、研修医からの積極的な接触が期待される。

研修プログラムを組むのは、選択科目が多いことで、簡単と思われるかもしれないが、却って複雑難解なものである。そこでいくつかのパターンを例示し、それを中心に研修管理委員会、指導医と研修医が協議し、この研修医の最終プログラムを決定したいと考えている。以下に個々の研修医の研修プログラム基本パターンを例示する。

1) A パターン



2) B パターン



臨床研修管理委員会名簿

1) 研修管理委員会

委員長:	小田 温	(脳神経外科部長)
副委員長:	富樫 清朋	(呼吸器内科部長)
	林 達彦	(副院長:外科部長)
	渡辺 直純	(外科部長)
委員:	澤田 洋一	(村上市岩船郡医師会 会長 外部委員)
	瀬賀 弘行	(瀬賀医院 院長)
	佐々木 綾子	(新潟県村上地域振興局局長)
	関野 敏	(黒川病院長)
	清水 春夫	(瀬波病院長)
	岩島 明	(長岡中央総合病院 内科部長)
	小出 章	(副院長:脳神経外科部長)
	太田 宏信	(副院長:消化器内科部長)
	長 賢治	(腎臓内科部長)
	勝山 幸一	(小児科医長)
	藤巻 尚	(産婦人科部長)
	高橋 哲	(事務長)
	川崎 愛子	(看護部長)
	本間 元雄	(元村上小学校校長)

構成員 18名 (委員長 1名・副委員長 3名・委員 14名)

2) 事務局

渡邊 孝	(総務課長)
新井 陽子	(病歴室)

3) プログラム責任者

渡辺 直純	(研修管理委員会副委員長)
-------	---------------

指導医及び指導体制

以下に示す指導医の下、研修する。診療所研修では、診療所院長の下、研修する。

担当 診療科	氏名	所属	役職	臨床 経験 年数	資格等	備考
外科	ムヤマ 功仔 村山 裕一	村上総合病院	病院長	37年	日本外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 専門医・指導医	指導医
脳神経 外科	コイケ アキラ 小出 章	村上総合病院 栗島へき地 出張診療所	副院長 診療所長	30年	日本脳神経外科学会 専門医、 研修実施責任者	指導医
整形 外科	サカハ 加々川 八木 和徳	村上総合病院	診療部長	35年	日本整形外科学会 専門医 脊椎脊髄外科 指導医	指導医
消化器 内科	サイトウ リョウイチ 齋藤 良一	村上総合病院	副院長	38年	日本内科学会 認定医 日本消化器内視鏡学会 専門医	指導医
呼吸器 内科	トカシ 冨樫 富樫 清朋	村上総合病院	部長	26年	日本内科学会 認定医、専門医	指導医
腎臓 内科	チノウ ケンヂ 長 賢治	村上総合病院	部長	17年	日本内科学会 認定医	指導医
消化器 内科	オノ ヒロノブ 太田 宏信	村上総合病院	副院長	30年	日本内科学会 認定医 日本消化器病学会 指導医、専門医、 日本消化器内視鏡学会 専門医、 日本肝臓学会 専門医	指導医

消化器 内科	イカガ 岩永	アキ 明人	村上総合病院	医長	7年	日本内科学会 認定医	指導医
循環器 内科	カガ 岡田	シノブ 慎輔	村上総合病院	医長	10年		指導医
小児科	カヤマ 勝山	コウイチ 幸一	村上総合病院	医長	11年	日本小児科学会 専門医	指導医
外科 救急	ハヤシ 林	タケコ 達彦	村上総合病院	副院長	23年	日本外科学会 専門医、 日本消化器外科学会 専門医、指導医 日本臨床腫瘍学会 暫定指導医	指導医
外科	ワタベ 渡辺	ナオミ 直純	村上総合病院	部長	18年	日本外科学会 専門医、 日本消化器外科学会 専門医、	プログラム 責任者
産婦人 科	フジマ 藤巻	カウ 尚	村上総合病院	部長	25年	日本産科婦人科学会 認定医	指導医
産婦人 科	コジマ 小島	ユミ 由美	村上総合病院	部長	16年	日本産婦人科学会 認定医 専門医	指導医
産婦人 科	カザリ 金澤	コウジ 浩二	村上総合病院	健診担当 診療部長	43年	日本産婦人科学会 専門医	指導医
脳神経 外科	オダ 小田	ヌヌ 温	村上総合病院	部長	24年	日本脳神経外科学会 専門医	指導医
放射線 科	ヤマザキ 山崎	ミチオ 岐男	村上総合病院	部長	54年	日本医学放射線学会 放射線科専門医	指導医
耳鼻咽 喉科	サウ 佐藤	ヒロコ 裕子	村上総合病院	医長	10年	日本耳鼻咽喉科学会 専門医	指導医
泌尿器 科	ヤマナ 山名	カズト 一寿	村上総合病院	医長	12年	日本泌尿器科学会 専門医	指導医
皮膚科	スズキ 鈴木	シヤ 信也	村上総合病院	医員	9年		指導医

精神科	セノ サト 関野 敏	黒川病院	院長	42年	精神保健指定医	指導医、 研修実施責任者
精神科	マツ ノギ 松井 望	黒川病院		32年	精神保健指定医	指導医
精神科	イツキ マドカ 稲月 まどか	黒川病院		22年	精神保健指定医	指導医
精神科	カマ ナキ 小熊 千秋	黒川病院		20年		指導医
精神科	ミヤト シノブ 宮本 忍	黒川病院		10年	精神保健指定医	指導医
外科	シズ ハル 清水 春夫	瀬波病院	院長	49年	日本外科学会 指導医	指導医 研修実施責任者
呼吸器 内科	セノ ヒロキ 瀬賀 弘行	瀬賀医院	院長	23年		指導医 研修実施責任者
地域保 健・医 療	サキ アキ 佐々木 綾子	村上保健所	医監(所長)	28年	産婦人科学会 専門医 細胞診専門医	指導医、
呼吸器 内科	イワ アキ 岩島 明	長岡中央総合病院	部長	25年	日本内科学会 認定医	指導医
循環器 内科	カミ ユウ 中村 裕一	長岡中央総合病院	部長	22年	日本内科学会 専門医	指導医

研修医の処遇（身分・給与・宿泊施設・社会保険の有無など）

- ①研修医の身分： 身分上の取り扱いは常勤臨時職員とする。
- ②給 与： 一年次：月額 510,000円
2年次：月額 570,000円
- ③手 当： 学会等参加費用：支給
通勤手当：給与規定に準ずる
- ④宿 舎： 有り
- ⑤駐 車 場： 希望により用意
- ⑥社会保険： 健康保険：加入
労災保険：加入
雇用保険：加入
厚生年金保険：加入
- ⑦医師賠償責任保険：病院加入および個人加入
- ⑧勤務時間： 月～金：8：30～17：00
但し、受け持ち患者によっては、居残り、夜間呼び出しを余儀なくされることがある。
日当直：一年次は週に一回程度、副直としてこれに当たる。
二年次は研修診療科によっては、一人当直を行う事もある。
- ⑨休 日： 土曜・日曜・祝祭日および病院が定める特別休日
- ⑩有給休暇： 一年次 13日（指導医と相談し、了解を得る）
- ⑪アルバイト： アルバイトは禁止する。
- ⑫研修医室： 個室

村上総合病院の概要

1. 所在地 958-8533 新潟県村上市田端町二番十七号 (0254-53-2141)
2. 診療科 内科・小児科・外科・脳神経外科・産婦人科・耳鼻咽喉科・眼科
整形外科・皮膚科・泌尿器科・歯科・放射線科・リハビリテーション科
(13科)
3. 許可病床数 一般 263床(4病棟)、透析22台
4. 利用者数 一日 外来 約840名・入院 約220名
5. 診療圏 県北部 約8万人
6. 病院面積 敷地面積 14,967 m²、延床面積 16,675 m²
7. 施設基準等 一般入院基本料 10:1・障害者施設等入院基本料 10:1・夜間勤務等看護加算・重症者等特別療養環境加算・脳血管疾患リハビリテーション(1)・運動器リハビリテーション(1)・呼吸器リハビリテーション(1)
8. 社会保険等 保険医療機関・労災指定・生活保護法指定・結核予防法指定・養育医療指定・原爆医療指定・更正医療(腎)
9. 施設認定 救急告示病院
へき地医療拠点病院
・災害拠点病院
臨床研修指定病院(管理型)
臨床研修指定病院(協力型)
財団法人日本医療機能評価機構認定病院
日本内科学会認定医制度教育関連病院
日本消化器病専門医制度認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本外科学会専門医修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本消化器内視鏡指導施設
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設 B
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
日本周産期・新生児医学界認定施設
日本静脈栄養学会 NST 稼働施設
日本緩和医療学会認定研修施設
マンモグラフィ検診施設画像認定
10. 職員数 約400名(うち医師31名)
11. 特徴・方針 県北の基幹病院として、充実した高度医療の提供と患者から

信頼される病院づくりをモットーに、保健・医療・福祉の総合一体的な病院機能が展開されるよう取り組んでいます。また、県の災害拠点病院、救急指定病院として救急医療の最前線に向かって、その使命を果たすことを第一義として掲げています。予防医学面では、健診センターと成人病検診車による地域住民の健康管理を全面に、さらには高齢化社会に対応した在宅介護支援センター、訪問看護活動など、完結型病院としてさらに機能強化を目指しています。

1 2. 併設施設 健診センター・訪問看護ステーション・在宅介護支援センター

臨床研修協力病院：長岡中央総合病院の概況

1. 所在地 〒 940 - 8653 新潟県長岡市川崎町 2041 番地
電話 0258 - 35 - 3700 FAX0258 - 33 - 9596
2. 診療科 内科・神経内科・循環器内科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・呼吸器外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・精神科・心療内科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科・歯科口腔外科
(21科)
3. 病床数 一般531床(11病棟) 透析40台
4. 利用者数 1日平均 外来1431名 入院484名(平成20年度実績)
5. 診療圏 長岡医療圏約35万人
6. 病院面積 敷地面積109137㎡ 延床面積47992㎡ 駐車場1530台
7. 施設基準等 一般入院基本料7:1
8. 職員数 約830名(うち医師85名)
9. 学会専門医修練施設としての認定

日本内科学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本血液学会認定研修施設、日本気管支学会認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修関連施設、日本外科学会認定医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設、日本産婦人科学会認定医制度卒後研修指導施設、日本麻酔学会認定指導病院、日本プライマリケア学会認定医研修施設・日本医学放射線学会専門医修練機関、日本整形外科学会認定研修施設、日本眼科学会専門医研修施設、日本脳神経外科学会専門医指導訓練所、日本泌尿器科学会専門医教育施設 他多数

1 0. 病院の特徴

平成17年10月に長岡市内より郊外に移転新築し、病床数531床、1日外来患者数1400人を超える総合病院であり、長岡地区の中心的医療施設になっている。紹介率は30%以上を維持し、地域連携も密に行っている。先進的な医療技術だけでなく、救急医療や地域に視点を置いたプライマリ・ケアが確実にできるよう、必要な知識・技術・態度が身に付けられるよう指導を行っている。平成18年8月にはが

ん診療連携拠点病院の指定を受ける。また、平成 21 年 3 月には日本で 17 台目の 320 列 CT を整備するなど、常に医療機能の向上を図っている。

1 1. 研修の特徴

当院での研修開始時期によって多少の差はあるが、8 週間を一つの単位として各診療科を研修する。内科での研修は研修医と相談のうえ、希望する診療科（消化器・呼吸器・循環器・腎内分泌血液）を選択してもらい、研修先を決定する。全ての診療科でマンツーマンの指導医を配し、適切な指導を行えるようにしている。2 年次の選択研修では当院の選択診療科から自由に選び、研修を自ら組み立てる方式を行う。当院では平成 21 年度、管理型の研修医（1 年次 7 名・2 年次 8 名）が在籍しているが、この他にも新潟大学の協力型研修医を常に 2～4 名程受け入れている実績があり、村上総合病院所属の研修医を新規に受け入れる体制は十分に整っている。

臨床研修協力病院：黒川病院の概況

1. 所在地 〒 959-2805 新潟県胎内市下館字大開 1522 番地
電話 0254-47-2422 F A X 0254-47-3181
2. 診療科目 精神科・神経科・内科・歯科
3. 病床数 精神一般 急性期病棟 58 床
精神療養 急性期病棟 58 床
社会復帰病棟 54 床
老人性認知症治療病棟 100 床
合 計 269 床
4. 外来患者数 一日 約 60 名
5. 職員数 194 名（うち常勤医師 5 名・非常勤医師 7 名）
6. 理念 私たちは地域の人に愛され、患者様が安心して利用できる病院を目指します。
7. 基本方針 1. 地域医療のニーズに応える
2. 温もりのある医療サービスを提供する
3. チーム医療の充実を図る
8. 建物 鉄筋コンクリート 2 階建
9. 延面積 11,879 m²
10. 併設施設 介護老人保健施設・老人性痴呆疾患センター・在宅介護支援センター・訪問看護ステーション

臨床研修協力病院：瀬波病院の概況

1. 所在地 〒 958-8555 新潟県村上市瀬波温泉 2 丁目 4 番 1 5 号
TEL 0254-50-1900 FAX 0254-50-1901
2. 診療科目 内科・皮膚科・リハビリテーション科

3. 病床数	一般病床	46床
	療養病床	46床
	合計	92床
4. 外来患者数	一日	約27名
5. 職員数		76名（うち常勤医師4名・非常勤医師1名）
6. 理念		患者様への思いやりの心で、温もりある医療を提供し、地域から信頼される病院を歩みます。
7. 基本方針		地域の急性期病院の後方病院として、リハビリ・慢性期医療の充実に努める。
8. 建物		鉄筋コンクリート6階建
9. 延面積		8,986㎡

臨床研修協力診療所：粟島僻地出張 診療所の概況

1. 所在地	新潟県岩船郡粟島浦村日ノ見山1513	
2. 診療科目	内科	
3. 職員数	看護師 2名	
4. 沿革	昭和34年	医師の辞任により粟島浦村が無医村となる。
	平成12年12月	診療所と村上総合病院の間にテレビ電話が設置される。
		以後、テレビ電話を利用した急患診療が、24時間態勢で可能となる。
	平成13年11月	週2回のテレビ電話による定期遠隔診療が開始される。
5. 夏期の休日診療	7月～8月の毎日曜日、村上総合病院から各科の医師が出張し、診療を行う。	
6. 主要医療機器	聴診器音拡大装置（テレビ電話を通じ、村上総合病院で診療所の患者の聴診音が聴取可能）	
	超音波診断装置	
	尿分析装置	
	遠心分離器（血液検体を処理後、船便で村上総合病院に送り、そ	

のデータを定期テレビ電話診療等に活用する)
酸素飽和度モニター
A E D (自動対外式除細動器)
蘇生器具、酸素ポンペ、その他

臨床研修協力診療所：瀬賀医院の概況

1. 所在地 新潟県村上市吉浦 3060
2. 診療科目 内科
3. 職員数 医師 1名
看護師 4名

4. 基本方針 通常の内科医としての診療を行うが、特に重要視している診療項目は、緩和医療である。夜、9時、10時でも毎日のように往診し、患者と語り合い、今までの素晴らしかった人生を語り合い、現在の苦痛を取り除き、新潟県内でも最大の数の終末医療対象患者を抱え、在宅で、家族と一体となった緩和医療を精力的に続けている、非常に貴重な医師で、この姿を研修医にも診てもらい、共に働き、明日の展望としたい。

平成24年度 村上総合病院 臨床研修医募集要項

当院では平成24年度の基幹型臨床研修病院として、卒後臨床研修生の募集をしております。

1) 研修医定員数

マッチング制度に基づき公募し、4名を採用する。

2) 応募資格

平成24年3月卒業予定者

3) 募集と選抜方法

募集は公募とし、面接にて行う。

4) 研修プログラム

厚生労働省の臨床研修の到達目標に準じ、そのすべてを身につけることを目標とする。

5) 研修協力病院

新潟県厚生連 長岡中央総合病院、黒川病院（精神科研修）、新潟県厚生連 瀬波病院、村上岩船地区診療所 瀬賀医院

6) 研修医の処遇

(1) 研修医の身分：身分上の取り扱いは常勤臨時とする。

(2) 給 与：厚生連研修医規程に準ずる。

(3) 宿 舎：有り

(4) 社会保険：加入

(5) 医師賠償責任保険：病院及び個人加入

(6) 勤務時間：月～金：8：30～5：30

但し、受け持ち患者によっては、

居残り、夜間呼び出しを余儀なくされることがある。

日当直：週に一回程度、副直としてこれに当たる。

(7) 休 日：土曜・日曜・祝祭日および病院が定める特別休日（3日）

(8) 研 修 医 個 室： 有り

7) 研修終了後の進路

研修管理委員会などと相談して、研修医が自ら選択する。

現在、3年目の研修プログラムの作成準備中です。

8) 申し込み締め切り

平成23年8月19日（金）予定

9) 試験日

平成23年8月22日（月）・8月24日（水）予定

13：00～14：00 受付 14：00～16：00 面接

10) 申込先、問い合わせ及び資料請求先

〒958-8533 新潟県村上市田端町2-17

村上総合病院 研修管理委員会

TEL：0254-53-2141（代表）FAX：0254-52-4362

E-mail：kenshu-murakami@mgh.jp URL：http://www.mgh.jp